

どうする

放課後の過ごし方

校内で習い事 市民が先生

放課後子どもたちなどにとつて、友達や遊んだたり、習い事に熱中したりする大切な時間。家庭や学校では経験できない企画を用意して、大人をふれ合う機会を増やそうとしているNPOがあります。その試みを探り入れる動きも、各地で始まっています。

東京都中野区の私立新豊 預かり料は、週5回で月
戸文化小学校は昨春、子ども 3万4千円、補助金を受け
もたちが放課後を通わせる ていないため、区の学童保
よう校舎を新設した。子ども 育に通うのには比べ、数倍の
もを預かるだけでなく、希 負担になる。
望者には様々な習い事も 預かりに習い事を通し回
供する。 プラスすると、さらに月6



千円前後かかる。テニスや
ピアノ、英語など12種類の
プログラムをそろえ、先生
役には地域や企業の専門家を
招く。今年10月には、約20
人が天文と書道の講座を受
けていた。

竹越俊五郎校長は「少子
化の時代に、共働世帯世帯を
応援する経営戦略。手応え
を感じている」と話す。戦
略が功を奏したのか、昨秋
の入学試験の受験者は、前
年より約3割増えた。

運営しているのは、NPO
法人「放課後NPOア
タースクール」。これまで

都内の区立小などで活動
し、新設戸文化小で初めて
放課後事業全般の運営を任

放課後の専任講師、子どもたち
は書家の先生に、筆の持ち方か
ら教わっていた。区立中野区
の新設戸文化小

された。自由学園（東京都
東久留米市）の放課後事業
の立ち上げにも関わった。
代表理事の平谷泰幸さん

（38）は元百貨店社員。親の
誕生をきっかけに、子ども
が安心して遊べる場所が欲
しかったに気づいた。米国の
NPOが放課後、「雨国先
生」を招いて様々な講座を
開いているのを知り、20
05年、地域の大人たちを
巻き込んで放課後プログラ
ムをスタートさせた。
「ミニシアターで一つ届が
つてくると、大人がかわる
パティシエ、けん玉日本一
——。協力者は徐々に広が
り、提供できるプログラム
は200を越える。

「地元の人がかかわる
ことで、地域と子どもが
つながる機会にもなる。学校
や家庭では学べないこと
を、吸収する機会になれ
ば」

NPOを活用して、放課
後の居場所づくりを始めた
自治体もある。山形県は今
年度、「地域の放課後づく
りモデル事業」に1500
万円の予算を計上。遊び場
づくりをするNPOなど、
県内の各団体にプログラム
づくりを委託した。

親子育で支援隊の小林敬
子さんは、アフタースク
ルの活動を知り、県内でも
できないかと考えた。

県内でも少子化が進み、
同世代の子どもが近所で遊
ぶ機会が減っている。子ど
も同士の外遊びに親が不安
を感じるようになり、小さ
な子どもは室内にとどまり
がちだという。「学童保育に
通う子どもでもない子も、
学年に関係なく安心して、
わいわい集まる場所を作
りたい」と話す。

「地元の人がかかわる
ことで、地域と子どもが
つながる機会にもなる。学校
や家庭では学べないこと
を、吸収する機会になれ
ば」
神戸市でも今年2月、ア
フタースクールの手添えを採
り入れた「アフタースク
ルこうべ」が決定した。地
元有志を中心に、子どもの
居場所づくりを進める。28
日、地元企業の協力を得
て、子どもたちが企画した
フュージョンショーを開
く。（見本紀世子）